

報告

「音符の言語化」に適した「ことばのリズムパターン」の抽出

戸川 晃子¹⁾Extraction of “Rhythmic Patterns of Words” Suitable
for “Verbalization of Musical Notes”Akiko TOGAWA¹⁾

要旨

筆者はピアノ初学者における効率的かつ効果的なピアノ教授法の確立を目指し、これまでに「音符の言語化」がリズム習得に有効であることを報告してきた。本研究では次のステップとして、協力者の学生にリズムを提示し、学生自らがそのリズムに基づき「音符の言語化」を行い、学生が投票によりリズム習得に適していると考えたことばを選抜した。次にピアノ指導者がそれらのことばを元のリズムで再現できるか検証を行った結果、選抜されたことば群の中にリズムを正確に再現できるものが見出された。そこで次に選抜されたことば群を詳細に検証した結果、「音符の言語化」に適した「ことばのリズムパターン」が抽出された。

キーワード：ピアノ教授法、リズム、音符の言語化、保育者・教員養成校

Abstract

The purpose of this study is to extract rhythmic patterns of words suitable for note verbalization. I have already reported the effectivity of the “verbalization of musical notes” for rhythm acquisition to establish an efficient and effective method for teaching piano to beginner students. In this study, the students first devised the “verbalization of musical notes” for the rhythms provided, and by a common student consensus, words suitable for rhythm acquisition were selected. Piano teachers then verified the suitability of those selected words and could then precisely reproduce the original rhythms using some of them. Finally, based on the results of the selection, the rhythmic patterns of the words suitable for “note verbalization” were extracted.

Key words: Piano method, Rhythm, Verbalizing musical notes, Teacher training school

1) 教育学部こども教育学科

はじめに

筆者は「音符の言語化」がリズム習得に有効であることを検証し報告してきた¹⁾。本研究では、次のステップとして「音符の言語化」に適した「ことばのリズムパターン」を抽出することを目的とした。本研究でいう「音符の言語化」とは、音符が示すリズムと同じリズムのことばを当てはめる実践を意味する。

本研究では、保育者、教員養成校の学生にバイエル89番、94番の冒頭右手のメロディ部分のリズムを提示し、そのリズムと同じリズムを持つことばを考え提出してもらった。その言語化集を共有し、学生は発音に合わせてリズム打ちをし、提示された音符のリズムに再現できると感じたもの、さらにそのうち最も印象に残ったものを選抜した。その選抜されたことばから、「音符の言語化」に適した「ことばのリズムパターン」を抽出した。

1. リズム学習の背景と本研究の意義

筆者はこれまで「音符の言語化」がリズム習得に有効であることを報告した²⁾。リズムに合うことばを発音しながらリズム打ちをした場合、楽譜で理解しにくいリズムでも正しく再現できるのである。この「音符の言語化」は、例えば1人での練習時においても正しいリズムを再現できる。ただし、考えることばがリズムに合っているかを検討しなければならない。このようにことばによるリズム習得は一般的にも行われている。例えば、「ボギー大佐」では「サル ゴリラ チンパンジー」ということばをあてはめることで、多くの人がこの曲のリズムを把握できる。Carl Orffの音楽教育では、ことばをリズム化することで生きたリズムを学ばせている。この「ことばとリズム」の関係を逆転させる試み、すなわち、音楽を言語化することでリズムを学ぶ実践は、すでに幼児教育、音楽教育の場において取り入れられている。高橋(2019)は著書の中で様々なリズムパターンにことばを提案している³⁾。細田(2006)は著書

の中で、「一見難しいリズムも、子どもたちになじみのあることばに置き換えることで、かんたんに楽しく覚えられます⁴⁾」と述べている。また、多くのリズムパターンにそれぞれことばをあてはめた例を示し、「リズムを子どもたちに教えたい時、「タンタンタタタン」よりもここにご紹介したようなことばをあてはめて伝えると、楽しく簡単にリズムを覚えることができる⁵⁾」と記している。日本の才能教育で有名なスズキ・メソードのレッスンでは、まだ楽譜を用いないレッスン過程においても、パターン化したリズムをことばで表し、リズムを学ばせていることが多い。つまり、多くの指導者が経験上、例えば楽譜を読めない子どもたちに正しいリズムを伝える方法として、ことばの持つリズムを用いて指導することは有効であると考え実践している。この際に重要となるのが、細田の言う「なじみのあることば⁶⁾」である。正しいリズムで「音符の言語化」がされても、そこで用いられることばが、普段の生活であまり用いないものであればリズム習得の効果は限定的になると考えられる。

一方で、筆者(2019)は、ピアノ初学者がリズムを習得すれば、演奏評価が上昇し、リズム習得ができた学習者には曲の流れを重点的に指導すれば演奏評価が上昇する結果を定量的に導いた⁷⁾。また、これまで実践してきた「音符の言語化」がリズム習得に有効であるだけでなく、ピアノの演奏技術や演奏表現の向上にも効果があることが示唆された⁸⁾。

Steven Mithen(2012)は、「音楽にも言語にも、感情を豊かに表現するフレーズングの性質がある」とし、韻律は、「話しことばのメロディとリズムを意味する」と述べている⁹⁾。Philip Ball(2013)は、「言語の場合も、音楽の場合も、リズムに関する情報の処理は、脳の同じ部位で行われている可能性がある¹⁰⁾」という。すなわちことば、音楽、リズムは密接な関係がある。

これらの背景を踏まえ、筆者はこれまで行われている指導者からのことばの提案によるリズム習得ではなく、学習者自身がリズムに合うことばを考える

ことによってリズム習得が可能な指導法を目指している。しかしこれまでの研究では、学習者自身がリズムに合うことばを考えた場合、音符のリズムとことばのリズムがあっているかの検討が必要となっていた。そこで、本研究では、音符のリズムに適した「ことばのリズムパターン」を抽出することを目的とする。これにより指導者が「ことばのリズムパターン」のみを示し、学習者自身がそのパターンに合うことばを考えることで「音符の言語化」ができると考える。

2. 実践方法

本実践では、LMS（学習管理システム：Learning Management System）の manaba コースで課題を提示した。協力者は、提示された音符のリズムに適すると考えることばを manaba で提出した。提出されたすべてのことばを一覧にし、協力者に提示した。そして、その協力者は、発音しながら発音に合わせてリズムを打ち、それが提示された音符のリズムであると思うものを複数選抜し、さらにその中から最も印象に残ることばを単数選抜した。

2-1. 実践手順

リズムに合うことばやもっとも印象に残ることばを公平に選抜するため、協力者をリズムに合ったことばを考える協力者とことばがリズムに合っているかを選抜する協力者に分けた。

ことばを考える協力者を対象に、バイエル 89 番（図1）（本稿ではAのリズムと言う）¹¹⁾及び94番（図2）（本稿ではBのリズムと言う）¹²⁾の右手の冒頭部分の楽譜を提示し、それぞれのリズムにあったことばを考え提出するよう求めた。楽譜が示す正しいリズムの提示は、筆者がパワーポイントに該当楽譜部分を貼り付けスライドショーで示しながら口頭での説明、該当部分のリズム打ちしたものを zoom で録画した。協力者はその動画を視聴し、ことばを考え提出した。筆者は提出されたことばを曲ごとにランダムに一覧にした。次に、ことばを選抜する協力者

は、筆者が正しいリズムをリズム打ちで示した後、言語化されたことばの一覧（表1、表2）を見て、発音しながらリズム打ちをし、リズムと合っていることばの番号をすべて選抜し（複数選抜）、さらにその中で最も印象に残ることばを単数選抜し、それぞれ manaba で回答した。なお、本研究では、何度発音しても同じリズムになるべき「ことばのリズムパターン」を抽出するため、同じことばが提出されていても削除しなかった（同じことばの場合、選抜数は同じになるはずである。同数ではない場合、「ことばのリズムパターン」には不適切ということである）。

ことばが提示された音符のリズムに合っているか否かの検証方法として、ことばのリズムを可視化するため、ピアニスト2名に言語化一覧だけを示し、Aのリズムでは「四分の三拍子、アウフタクト+2小節のリズム」、Bのリズムでは「四分の二拍子 4小節」で記譜することを依頼した。その後、それぞれの楽譜部分を示した上で、記譜した際と正しいリズムを見た上での気づきについてインタビューを行った。

2-2. 研究協力者

研究協力者は本研究に同意した保育者、教員養成校の2、3年生113名、ピアニスト2名である。なお、学生には研究協力に対する同意は何時でも撤回可能であること、同意するか否かは成績には無関係であることを示した文書を manaba 上に添付し、一読した上で、同意するか否かをアンケート機能で回答を求めた。ピアニスト2名は文書で同意を得た。



図1 バイエル教則本第89番冒頭右手部分



図2 バイエル教則本第94番冒頭右手部分

2-3. 実践時期

本実践は2021年に行った。

2-4. 課題曲

学生が捉えにくい付点やシンコペーションが含まれるバイエル89番、94番の冒頭の右手のリズムとした。

3. 結果

各課題曲におけることばを提出した協力者は61名、ことばを選抜する協力者は52名であった。

表1はバイエル89番Aのリズム、表2はバイエル94番Bのリズムのそれぞれ「音符の言語化」及び選抜結果である。

リズムに適し、最も印象に残ることばは、Aのリズムでは「1フルーウツフルーウツ」「17ひかっているひかっている」、Bのリズムでは、「1はしってかけっ

表1 バイエル89番の協力者による「音符の言語化集」と選抜結果

	学生による「言語化」	複数選抜数 (人)	単数選抜数 (人)		学生による「言語化」	複数選抜数 (人)	単数選抜数 (人)
1	フルーウツフルーウツ	33	9	31	いち ごー パフェ ちょ こー パフェ	10	
2	飛べるぞ 飛行機	8		32	おさいふ わすれた	4	
3	リーチ…ビンゴ!リーチ…ビンゴ!	0		33	やまーだが くじーいた	27	4
4	おーかーあさん おーとーうさん	25	5	34	おいしいご飯 大盛り ご飯	2	
5	それでは 頑張ろう	3		35	まいったなー まいったなー	32	2
6	おはよう おやすみ	7		36	東京、東京	3	
7	やったー勝ちやったー勝ち	23	3	37	パイナップル パイナップル	10	
8	ラケットとホイッスル	25	1	38	ホットヨガ あったまる	7	
9	おかあさん おかあさん	11		39	ばんめし てんぶら	4	
10	うん だーいすき	4		40	こまったなあ こまったなあ	27	3
11	ロケットだ	13		41	クレーブ たべーたい	9	
12	さあ うーたお	6		42	ホッケーしよ ホッケーしよ	25	
13	赤いね食べ物	7		43	ぼくらのヒーロー	3	
14	おとうさん おかあさん	11	1	44	もう良いっかな帰ろっかな	12	
15	坊さん お経 読んで 寝た	0		45	い ち ごを た べ たい	6	
16	スターチス アンバーチ	22	1	46	カッターシャツ 羽織ったよ	15	
17	ひかっている ひかっている	25	7	47	おとーさん おかーさん	13	
18	ほらいくぞ、あの場所へ	0		48	クッキーまだ?クッキーまだ?	23	1
19	ダン ゴ ムシ	6		49	そうだったの、すごかったね	2	
20	ひとつとび、ひとつとび	27	4	50	スーパーゲティ おいしーいな	6	
21	みんなで にげるぞ	3		51	チェック柄	1	
22	おっさーなー ちっさーいなー	16	2	52	お花が きれいだね	3	
23	あっ!ケーキだー わっ!ジュースだー	25	3	53	どうぶに あそんだよ	7	
24	スキップでスキップで	20	1	54	買った靴 買った服	11	
25	ユーラシア	1		55	パンケーキ あんドーナツ	8	1
26	たっちゃん すき こっちゃんらぶ	4		56	すもーうしよ すもーうしよ	20	1
27	たのしい たのしい	4		57	シーソーしよ しーそしよ	16	
28	あかちゃん あかちゃん	2		58	パイナップル	4	
29	サッカーしよ サッカーしよ	27		59	ラーメン すし チャーハン にく	6	1
30	ミッキーだよ ミッキーだよ	24	1	60	おかあさん おかあさん	7	1
				61	おおきな きつつき	2	

こ負けないぞ、おー!」[10 テキーラレポートあたまがピンチ] [50 デザートデザートおいしいケーキ]が多数であった。

Aのリズムでは、1, 8, 17, 20, 23, 24, 33, 35, 40の3文字目に「っ」または「ー」がくることば、7, 29, 30, 42, 48の2文字目に「っ」4文字目に「ー」がくるパターンがリズムにあっていてるものとして多数であった。

Bのリズムでは、1, 8, 10, 18, 20, 22, 23, 28,

40, 50がリズムにあっていてるものとして多数であった。

ピアノ指導者が言語化集を記譜した場合、楽譜と全く同様に再現できたものは、Aのリズムでは17, 24, 30, 35, 40、Bのリズムでは28, 50であった。これらは学生が選抜したことば群の中でも見出された。

表2 バイエル94番の協力者による「音符の言語化集」と選抜結果

	学生による「言語化」	複数選抜数 (人)	単数選抜数 (人)
1	はしって かけっこ 負けない ぞ、おー!	40	8
2	フルーツ スイーツ バクバク 進む	19	
3	めしはやくすくにたべた…い!	2	
4	ステーキ ステーキおいしいよーね	32	1
5	毎日 毎日 お疲れ様	2	
6	今日はカレーが食べたいです	7	
7	昨日は胡椒をたくさん買った	34	
8	スケートスケートたのしいランラン	42	2
9	ドッカーン ドッカーン かみなり ドンドン	8	1
10	テキキーラレポートあたまがピンチ	36	8
11	今日犬とお散歩に行った	0	
12	ほしーい ほしーい りんごが ほしい	6	
13	高い高い建物がある	2	
14	かわいいかわいいあのこねこちゃん	2	
15	笑った 笑った 赤ちゃん やった	30	3
16	おとうさん おかあさん おなかが すいた	9	
17	おべんと おべんと おいしいな うん!	33	
18	飛行機、飛行機、空まで飛んだ	35	1
19	きょうのごはんきつねうどん です	1	
20	行こっか、行こっか、みなみのしーま	35	2
21	カラス がない ているよ うだ	1	
22	スカート スカーフ あらあら いーね	39	1
23	クレープ クリーム たべすぎちゃった	39	1
24	こまった こまった 課題しようね	29	1
25	ねえ、今どこにいるのよ	0	
26	きょう ぼくは げんきです いえい	0	
27	とり がない ちゅんちゅんちゅんちゅん ちゅん	0	
28	スタート スタート ドキドキ 競争	41	7
29	暑ーい 暑ーい プールに入る	17	
30	さぶーい さぶーい ゆーきがふってる	5	

	学生による「言語化」	複数選抜数 (人)	単数選抜数 (人)
31	ふるーつ ふるーつ みっくす じゅーす	10	1
32	あつい あつい なつがき たよ	2	
33	ぼくーの すきーな きーせーつーはなーつ	4	
34	今日 そとで 水遊び いえーい	0	
35	かけっこかけっこみんなできようそう	28	2
36	はと カラス きゅうかんちょう	0	
37	あの一、これは、サクランボケーキ?	1	
38	あさって 助っ人 野球をするよ	10	
39	はよ かだい やらなやばい なあ	0	
40	ひこうきひこうきとべとべびゅんびゅん	41	5
41	おなーか すいーた ごはんはなーに	28	
42	さむーい さむーい お風呂に いーこー	26	
43	いま ほしが ひかっている ね	0	
44	母さん僕がお使い行くよ	3	
45	こまった こまった おなかすいた	11	
46	かたやあしをさわったのよ	0	
47	みーんな きょーうは おまつり だーよ	12	
48	ぼく コアラ だいすきなん だ	0	
49	けさ そのの とおりで すべった	0	
50	デザート デザート おいしいケーキ	42	8
51	ねえ 見てよ 四葉のクローバー	0	
52	お腹すいた 何か食べようか	0	
53	きれいなきれいな おはなが いっぱい	20	
54	あしたはね晴れだそうです	0	
55	ワンピース ワンピース わーたーしーのーどーこー	0	
56	寒ーい 寒ーい 家入ろ	1	
57	ひこうきひこうきすばやくビューン	14	
58	描いたよ お昼寝中の	0	
59	たべーにいこう たのしみだ ルン ルン	2	
60	スケート スケート たのしい ふゆ	12	
61	いえの にわで なわとび した	3	

4. 考察

Aのリズムはアウフタクトから始まり付点リズムが続くパターンが2回繰り返される。学生による選抜では「1 フルーウツ フルーウツ」が多数であった。本来「フルーウツ」ということばは無く「フルーウツ」である。しかし、本研究では「ことばのリズムパターン」を抽出することを目的としているため、除外せず、協力者が提案したものすべてを実践対象とした。その結果、リズムに合っている且つ最も印象に残ることばとしてこれが選抜された。次位は「17 ひかっている ひかっている」であった。このように3文字目に「っ」が入っている1, 8, 17, 20, 23, 24, 33, 35, 40のことばをリズムに適していると選抜した協力者が多数であった。例えば「ひとつとび」「こまったなあ」「ラケットとホイッスル」などである。

一方、研究協力者であるピアノ指導者へ言語化一覧だけを示し、記譜を依頼した結果、(Aのリズムの冒頭4つの音符のリズムに着目した場合) 17, 24, 30, 35, 40がAのリズムで記譜していた。学生が次位に選抜した「ひかっている」と同様に「〇〇っ〇〇」のことばをAのリズムとして記譜している場合が多いが、7, 29, 30, 42, 48の「〇っ〇—〇〇」のことばについては、例えば29, 30と並んでいるにも関わらず、記譜は不確かであった。このことは、学生の複数選抜の数が一致しないことから見ても必ずしも毎回同じリズムで再現されないとと言える。つまり、「〇っ〇—〇〇」はAのリズムにはふさわしくないと考えられた。また、言語化されたことばが自然に話す際の抑揚と異なる場合も再現が不確かである。

協力者のピアノ指導者の1名は、Aのリズムにすべてあてはまらない記譜であったため、該当楽譜部分を提示した上で「なぜすべてがあてはまらないと感じたか」とインタビューを行った。結果、17などの「〇〇っ〇〇」は手拍子で聞こえるリズムとことばを発した際のリズムは同じであるが、例えばことばのリズムをピアノで弾いた際、「っ」は指が鍵盤か

ら離れ音が途切れるため、示されたリズムとは違うということであった(2文字目は伸びるべきである)。

これらの考察からAのリズムは、「〇〇—〇〇 〇〇—〇〇」と発音されることばが最も適しているのではないかと考えられる。ただし、リズム打ちや打鍵のタイミングでは、「—」は「っ」でもリズムの再現はできると言える。

Bのリズムについては、「10 テキーラ リピート あたまがピンチ」がリズムに適し且つ印象に残ると選抜された。1, 8, 22, 23, 28, 40, 50も多数の協力者が選抜した。例えば「1 はしって かけっこ 負けないぞ、おー!」、 「28 スタートスタートドキドキ競争」、 「50 デザートデザートおいしいケーキ」というようなことばであった。

一方、研究協力者であるピアノ指導者が言語化一覧を記譜した結果、「28 スタートスタートドキドキ競争」「50 デザートデザートおいしいケーキ」だけが提示した楽譜の記譜と完全に合致した。しかし、最後を「!」「♪」かの違い、先述のピアノでリズムを弾いた際と手拍子で聞こえるリズムとの違いがあり、音の長さに着目して記譜した指導者と手拍子、打鍵のタイミングとして判断した指導者とで記譜に違いが出たことがわかった。また、母音と「ん」について、文字の数と音符の数が毎回必ずしも一致しないという点が浮かびあがった。この点については、これまでの筆者の調査によっても示唆されている¹³⁾。

これらの考察を踏まえBの「ことばのリズムパターン」は「〇〇—〇 〇〇—〇 〇〇〇〇 〇—〇—」となった。

ただし、A、B両リズムの「言語化」の検証により、「ん」は前の文字と合わせてひとつ、また「—」を「っ」とした場合もリズム打ち、打鍵のタイミングにおいてリズムを再現できると考えられる。

5. 結論

本研究では、学習者がバイエル89番、94番冒頭右手部分のリズムを「音符の言語化」し、学習者によってリズムに適することばを選抜した結果とことばを専門家がリズムとして記譜した結果から、それぞれのリズムに適した「ことばのリズムパターン」が抽出された。これまでは指導者からのことばの提案によってリズムを学ぶ方法であったが、本研究で抽出した「ことばのリズムパターン」を活用し、学習者はそのリズムパターンに合うことばを考えることが可能になり、今後は自分自身のことばで「音符の言語化」ができると考えられる。リズムにあった「ことばのリズムパターン」を活用し、学習者は自ら「音符の言語化」をすることにより、自身の馴染みのある方言や抑揚に沿うこともできると考えられる。今後は、楽譜上の様々なリズムを「音符の言語化」によって「ことばのリズムパターン」を抽出し、それらを活用した指導法を確立したいと考えている。

謝辞

本研究は科研費(17K04825)の助成を受けている。

引用文献

- 1) 戸川晃子. 「音符の言語化」によるリズム習得の可能性. 神戸常盤大学紀要. 2021, Vol.14, pp.70-74.
- 2) 前掲書.
- 3) 高橋千佳子. ことばで味わうリズム唱入門. 音楽之友社, 2019, pp.81.
- 4) 細田淳子. わくわく音遊びかんたん発表会. 鈴木出版株式会社, 2006, pp.50.
- 5) 前掲書. pp.54.
- 6) 4) 同書.
- 7) 戸川晃子. 演奏評価解析から導き出すピアノ指導ポイント. 神戸常盤大学紀要. 2019, 第12号, pp.9-15.
- 8) 戸川晃子. ピアノ教授法における音符をことばにする試みー演奏技術向上への一可能性ー. 神戸常盤大学紀要. 2016, Vol. 9, pp.43-50.
- 9) スティーヴン・ミズン. 歌うネアンデルタール, 熊谷淳子訳. 早川書房, 2012, pp.41-42.
- 10) フィリップ・ボール. 音楽の科学ー音楽の何に魅せられるの?. 夏目大訳. 河出書房新社, 2013, pp.540-541.
- 11) バイエル. バイエルピアノ教則本. 全音楽譜出版社, pp.60.
- 12) 前掲書. pp.64.
- 13) 1) 同書.